

### ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて

とき・4/5(火)～5/22(日)  
ところ・2階展示室

内容・ジャック＝アンリ・ラルティエグ(1894-1986)はフランスの写真家です。幼いころから写真を撮り続け、生涯アマチュアを貫きました。あくなき探求心が生み出したユニークな視点の作品や家族や友人の幸せなすがたをうつつた作品など約160点を通して、写真を楽しむ、人生の喜びをつかまえてようとしたラルティエグの世界を紹介します。



ジャック＝アンリ・ラルティエグ  
《ダニとミシオンとポビー、フリボール・クラブにて、カンヌ》1936年5月  
Photographie Jacques Henri Lartigue ©Ministère de la Culture - France/AAJHL

観覧料・一般1000円(800円)、大高生800円(640円)  
※( )内は20名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料。併せてMOMASコレクションもご覧いただけます。

《関連イベント》  
○スペシャル・トーク

「幸せの瞬間をつかまえてーラルティエグと堀内誠一」  
とき・5/5(木・祝)15:00～16:30(開場は30分前)

ところ・2階講堂  
内容・デザイナー・堀内誠一の長女で、自身もラルティエグの写真集の翻訳に携わった堀内花子さんから、ラルティエグを愛してやまなかったという堀内誠一のエピソードなどをお聞きます。  
ゲスト・堀内花子/定員・当日先着100名/費用・無料

○ミュージアム・コンサート「うつりゆく日々、とどめおく光」  
とき・4/29(金・祝)14:30～(開場は30分前、演奏時間は約60分)

ところ・地階センター・ホール  
内容・1998年に結成された、個性派サクソ奏者による珍しい編成のジャズカルテットが、音によるダイアリーをお届けします。  
出演者・サキソフォビア(緑川英徳、竹内直、岡淳、井上JuJu博之)  
定員・当日先着60席/費用・無料

○映画上映会「ボゾール王の冒険」  
とき・4/24(日)11:00～(開場は30分前)

ところ・2階講堂  
内容・フランスで大流行した通俗小説を原作としたコメディ映画で、上映は非常に貴重な機会となります。ラルティエグがスチール写真を撮影しています。監督＝アレクシス・グラノフスキー、1933年、フランス、68分、モノクロ、DVDによる上映/フランス語での上映(字幕なし、あらすじを配布、上映前に解説あり)。  
定員・当日先着100名/費用・無料

○担当学芸員によるギャラリー・トーク  
とき・4/16(土)、5/7(土)15:00～15:30

ところ・2階展示室  
内容・担当学芸員が展示の見どころをご紹介します。  
費用・企画展観覧料が必要です。

※ご希望のグループに本展の見どころをご案内します(予約制)。お問い合わせ・ご予約は教育・広報担当(電話 048-824-0110)まで。

### アートフル∞プログラム MOMASの扉

とき・毎週土曜日 13:30～15:30  
対象・幼児から大人まで(プログラムにより対象年齢が異なります。)  
費用・「工房」は材料費500円。その他は無料。  
申込方法・館内で配布する申込用紙によりFAXでお申し込みください。申込用紙はホームページからもダウンロードできます。

5月分の申込みを4/1(金)から受け付けます。  
5/ 5(木・祝) もますまつり【※事前申込は不要】  
5/ 7(土) もますまつり【※事前申込は不要】  
5/14(土) み～つけ【4～6歳+保護者】  
5/21(土) みる+つくる(企画展物語)【小・中学生】  
5/28(土) 工房【小学生から大人まで】

6月分の申込みを5/1(日)から受け付けます。  
6/ 4(土) 彫刻あらいぐま【小・中学生+保護者】  
6/11(土) み～つけ【4～6歳+保護者】  
6/18(土) みる+つくる(MOMASコレクション)【小・中学生】  
6/25(土) わくわく鑑賞ツアー【※事前申込は不要】

AR動画のマークが付いている写真にスマートフォンをかざすと、動画をご覧いただけます。無料ARアプリ「Aurasma」をApp StoreまたはGoogle Playでダウンロードして楽しみください。アプリの使い方については、当館ホームページの「広報紙ソカロ」のページをご参照ください。

### MOMASコレクション(収蔵品展)

2016年度 第1期

とき・4/16(土)～7/10(日)

ところ・1階展示室

観覧料・一般200円(120円)、大高生100円(60円)

※( )内は20名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料。

◇セレクション：モネとかピカソとか  
当館の象徴であるモネの作品から、20世紀最大の画家ピカソによる静物画まで、西洋近代絵画の名品をご覧ください。

◇re-presentation イメージの継承と創造  
見立て、引用、オマージュなど、美術史の中で受け継がれるイメージの展開を紹介します。

◇小村雪岱の版画  
人気の高い県ゆかりの画家・小村雪岱の版画作品を紹介します。

《関連イベント》

○映画上映会「美術館を手玉にとった男」  
とき・5/14(土)11:00～、14:00～の2回上映(開場は30分前)

ところ・2階講堂  
内容・贋作制作に執念を燃やす主人公・ランディスと、彼を追うことに執念を燃やす人々。そして彼に騙された人々。彼ら自身や社会が持つ歪み、苦悩、そして良心がユーモラスかつ鋭く描かれる。  
監督＝サム・カルマン、ジェニファー・グラウスマン、共同監督＝マーク・ベッカー、2014年、アメリカ、89分、ブルーレイによる上映/配給：トレノバ  
定員・各回先着100名/費用・無料



クロード・モネ  
《ジュヴェルニエの積みわら、夕日》1888-89年



©Purple Parrot Films

○サンデー・トーク  
内容・学芸員が展示作品から1点を選んで展示室内で解説します。  
費用・MOMASコレクション観覧料が必要です。

とき・4/24(日)15:00～15:30  
作品・アンドレアス・M・カウフマン  
《小さな美術史マシーン》1991-92年  
担当学芸員・五味良子



アンドレアス・M・カウフマン  
《小さな美術史マシーン》1991-92年

とき・5/8(日)15:00～15:30  
作品・オーギュスト・ルノワール  
《三人の浴女》1917-19年  
担当学芸員・渋谷拓

※4/16(土)、4/17(日)を除く会期中の毎日14:00から30分程度、1階展示室で美術館サポーター(ガイド・ボランティア)による作品ガイドを開催しています。参加にはMOMASコレクション観覧料が必要です。

### 一般展示室(地階)

※展示により観覧時間(特に最終日の終了時間)が異なります。

- ◆4/5(火)～4/10(日) 第12回群炎埼玉支部展(絵画、彫刻、工芸ほか)……一般展示室2
- 第33回自然写真の会“彩”写真展(写真)……一般展示室3
- 第6回原澤比佐子と仲間達(パッチワークキルト)……一般展示室4
- ◆4/12(火)～4/17(日) 第32回さいたま蘭秀100選展(書)……一般展示室1
- 浦和写真クラブ作品展 自然と風土(写真)……一般展示室2
- 第8回五彩展(水彩、油彩)……一般展示室3
- 第23回漢水会展(水彩、油彩、水墨画ほか)……一般展示室4
- ◆4/19(火)～4/24(日) 市村緑郎遺作展(彫刻、レリーフ、デッサン)……一般展示室1
- 第10回フォト・トルトゥーガ写真展(写真)……一般展示室2
- 渡会不二男、厚生労働省・卓越した技能者(現代の名工)記念展…言葉なき物の言葉…和紙ファイバーアートの世界(和紙ファイバーアート)……一般展示室3
- 彩美会展(水彩、油彩、工芸ほか)……一般展示室4
- ◆4/26(火)～5/1(日) コウダマサル展 屏風 series—変革の痕跡—(水彩、アクリル)……一般展示室2・3
- ◆4/28(木)～5/1(日) 創立40周年記念 女流工芸展(工芸)……一般展示室1・4
- ◆5/3(火)～5/8(日) 第20回埼玉二科展(絵画、彫刻、デザイン)……一般展示室1～4
- ◆5/31(火)～6/22(水) 第66回埼玉県美術展覧会(日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真)……一般展示室1～4ほか

### 『MICALO』 = 『ソカロ』縮小計画

「引用の織物」: re-presentation イメージの継承と創造

模倣や引用、複製と芸術の関係について、古今さまざまな言説が生まれてきました。本紙で初めて実体化した『MICALO』(詳細は後述)では、MOMASコレクション第1期のテーマ展示「re-presentation イメージの継承と創造」にちなみ、そのようなテキストを引用でつなげる部分借用的手法を試みました。ただし、ここではそれぞれを織り合わせて、何か全く異なる意味合いを与えることは意図しておらず、テキスト同士がゆるやかに響きあひながら連なります。厳密には各テキストが扱う対象に違いはありますが、20世紀に加速した、模倣や複製を積極的に受け入れるあり方が示されます。

「表現」を意味する英語は、代表的なものに representation や expression がありますが、representation とは再び [re] 示す [present] こと、つまり現実の対象を再現することに由来します(一方の expression は、外に [ex] 押し出す [press] すること、つまり自己の内面を外界へ表出することに起源を持ちます)。このテーマ展示は、時にオマージュを捧げ、時にパロディ化し、時に別の見方を与えたりと、さまざまな形で先行するイメージを受け継ぎ、とらえ直し、「再び」「示す」ことを意図した作品に焦点を当て、re-presentation と題しました(ひとまとまりの単語の representation になぞらえつつもそれと区別するため、ハイフンを入れた造語としました)。

著作権の保護期間の延長が議論され、またデザインの独自性が世間の関心を集める昨今、現代社会が求めるオリジナリティとは果たして自明のものなのか、あらためて見つめ直すきっかけを提供できれば幸いです。(R.G.)

これは『MICALO』である

今号の表面では、『MICALO』(=『ソカロ』のミニ版「MINIZOCALO」の愛称)が実体化しました。ミニラ(ゴジラの息子=ミニゴジラ)と同じ発想です。昨年の8・9月号の「はみだしソカロ pre.3」で紹介したソカロ生まれの造語群のひとつに「ZOCALON(ソカロン)=そば粉を使ったマカロン」がありました。これは、私の妄想が生んだコトバに過ぎないのですが、マカロンで有名なピエール・エルメが、きな粉やそば粉に注目しているという記事を目にした途端、「ソカロン」の実体化を意識した「ミカロ」が、実体化の欲望を抱いたのです。しかし「ミカロ」自身は己を存在させる方法がわからないので、まずは「ソカロ」本体に「寄生」することを思いついたのです。そこからの成長は目覚ましく、MOMAS コレクション「re-presentation イメージの継承と創造」から栄養分を得て、印刷物の血肉である言説と画像を生成し始め、わずか1ヶ月足らずで、皆さんが目にしていく姿となりました。「ソカロ」の1/4の紙面上にのみ存在する印刷データでありながら、あたかも、実体として存在していると思われたい、いつかは紙として自立したい、そんな「ミカロ」の生への渴望が、紙面から滲み出ています。



柏原えつとむ(これは本である)1970年

さて、「寄生」や「re-presentation」という言葉から、学生時代によく読んでいた『反美学』に収録されていたグレゴリー・L・ウルマーの「ポスト批評の対象」という論文を思い出したことを告白せねばなりません。今回、五味学芸員に、展示の紹介記事を、他者の言説からの「引用の織物」として構成してはどうかと提案したのは、このウルマーの論文、そして、同論文内でも言及されているジャック・デリダの思想がヒントでした。以下に、この論文から、当時、私が強く惹かれていた箇所を「引用」して、『ソカロ』縮小計画】の締めくくりとします。(G.U.)

「批評的なフレームに散りばめられた新しい再現=表象、新しい例示の地位は、その一部は概念を頼りとする注釈と説明からの移行に関係するものであり、そのかわりに事例——著者自身のエクリチュールにおいて議論を事例で代替すること、それが利用する事例のレベルで研究対象(それが別の批評的、理論的テキストである場合)にアプローチすることの両方——によって作動するものなのである。』『反美学』159頁(註番号は省略)。

「あたかもウィトゲンシュタインの「意味とは用法である」という教えに従っているかのように、デリダは、指示物を構成するその構造化を上演し、もしくは遂行し(真似し)ており、その結果として同じ「種類」(同じジャンル——だが上述の「ジャンルの規則の規則」に従えば「異なっている」)の別のテキストを作っているのである。』『反美学』167-168頁。

出典：グレゴリー・L・ウルマー「ポスト批評の対象」『反美学』(ハル・フォスター編/室井尚・吉岡洋訳)勁草書房、1987年、145-198頁。

### ミュージアム・ショップおすすめ商品

埼玉県秩父市中津川で作られた、ケヤキやクリなどの地域材(間伐材)を使用したマグネットです。見た目は小さいですが、意外と強力です。メモをとめたり、写真・カード立てに。シンプルで自然な雰囲気はキッチンでもオフィスでもなじみやすく、木の温かみが生活に彩りを与えてくれます。ウッドマグで、ちょっと「ホット」とする場面を作ってみませんか?(E.S.)



ウッド マグ (Wood Mag)  
ケヤキ・クリ・スギ・シヨジ: 各360円(税込)  
流木: 410円(税込)

### 編集後記

これは編集後記である。(G.U.)  
新年度を迎えましたね。今年も紙面で楽しいことができるといいなあと思っています。(N.O.)